



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 519 (2020. 12. 24)

<今週のトピックス>

住みやすい街 No.1 はロハス発祥の地

アメリカで、住むのに人気がある街は、どこかを予想してみてください。

ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シアトル、ボストン、ダラス、マイアミではありません。意外な街が一番になっていたのです。今回は、最近のニュースと併せて、ご紹介します。

新型コロナウイルスの影響により、リモートワークが浸透するなか、住居を含めた生活コストが高いシリコンバレーから、人が流出しているという記事をよく目にします。ニューヨークシティからも同様に流出しており、何十万人もの人が、ニューヨーク郊外や他州へ移住したとされています。

【シリコンバレーからテキサスへ】

最近のニュースでは、ソフトウェア大手のオラクルが、シリコンバレーからテキサス州オースティンに移転する方針を公表しました。

オラクル公表の2週間前には、シリコンバレーの発祥とも言われ、象徴的な企業でもあるヒューレット・パッカートのスピンアウト企業である、ヒューレット・パッカート・エンタープライズがテキサス州のヒューストンに移転することを発表しました。



※カリフォルニア州のパロアルトにあるガレージ（左の写真）は、1938年にビル・ヒューレットとデビッド・パッカードがHPを設立した場所です。「シリコンバレーの発祥の地」と呼ばれ、世界一有名なガレージで、観光地にもなっています。

個人レベルの移動としては、テスラとスペース X の共同設立者および CEO のイーロン・マスクが、テキサス州のオースティンにアメリカ国内で 2 か所目となるテスラの新工場を作ることもあり、マスク氏本人も移住したことが、各メディアで報道されました。（マスク氏は、今年、世界長者番付で、第二位に急浮上しています）

【オースティン】

なぜ、テキサス州オースティンは人気があるのでしょうか。

理由は、比較的安い物価、税金、そして雇用です。

物価に関しては、ニューヨークやサンフランシスコなどの大都市と比べると、オースティンの物価は、相対的には、まだ安く感じるようです。

税金については、テキサス州には、個人の所得税がありません。アメリカでは、他にも、フロリダ州、ネバダ州、ワシントン州などが非課税です。

そして、雇用の観点です。例えば、先ほどのテスラの新工場の建設によって、最終的には、5000 人以上の雇用を生み出す計画を発表しています。オースティン商工会議所によると、オースティンへの移転を発表した企業が生み出す雇用は、今年は 1 万件近くに達する見通しで、過去最高となるようです。



【アメリカで住みやすい街ランキング】

トピック冒頭の投げ掛けですが、“U.S.News & World Report”によると、アメリカで住みやすい街 No.1 は、コロラド州のボルダーという街でした。（この街の名前、ランキングの結果で知るまでは、知りませんでした）

このボルダーですが、ロッキー山脈があり、大自然に囲まれています。日本でも、流行している“ロハス”発祥の地として有名で、ヘルス&エコ・コンシャスな街のようです。

（ロハス：Lifestyles of Health and Sustainability）

ランキング 10 位のうち、コロラド州の街が 4 つもランクインしているのが、興味深いです。コロラド州は、別名、Mountain State（山の州）とも呼ばれ、4000 メートル級の山々が南北に貫くロッ



キー山脈とともに、豊かな自然とその恩恵を受けて、発展してきた州です。

そして、今回のトピックでも取り上げました、テキサス州のオースティンが、堂々の第三位にランクインしています。

アメリカを代表する大都市である、ニューヨークやロサンゼルスは、ランキングの下位に位置付けられています。特に、不動産の価値が相対的に高い（住居コストが高い）ことが、ランキングに影響したようです。住んでみたい街（憧れの街）と実際に住みやすい街とは、違うようです。

	都市名	州	総合評価	生活のクオリティ	不動産の価値
1	ボルダー	コロラド	7.8	8.3	6.3
2	デンバー	コロラド	7.4	7.0	6.6
3	オースティン	テキサス	7.4	7.1	6.6
4	コロラドスプリングス	コロラド	7.4	6.9	6.5
5	フォートコリンズ	コロラド	7.4	7.6	6.0
6	シャーロット	ノースカロライナ	7.3	6.4	7.6
7	デモイン	アイダホ	7.3	7.3	8.4
8	フェイエットヴィル	アーカンソー	7.3	7.2	8.3
9	ポートランド	オーランド	7.3	6.7	6.1
10	サンフランシスコ	カリフォルニア	7.2	6.6	5.1
～					
97	ロサンゼルス	カリフォルニア	6.3	6.5	3.3
121	ニューヨークシティ	ニューヨーク	6.2	6.3	3.7

今回は、このようなランキング結果でしたが、別の観点や他のメディアで見ると、また違った結果が出てくると思います。ただ一つ言えることは、2020年、全米を襲った新型コロナウイルスによる影響が、企業の移転や、個人レベルでの移動（引っ越し）を加速させたと言えそうです。2021年は、明るいトピックが沢山お届けできるような一年になることを心より祈っています。

(出所 : Wall Street Journal, CNN, U.S.News & World Report, HP, Boulder Convention & Visitors Bureau)

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお申しあげます。
- ・本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。